

上森町長 こんにちは。まず、最初に和太鼓をされるきっかけを教えてください。

中橋さん 私は元々日本舞踊で和楽器を習っていましたが、師匠から22歳の時、和太鼓をしないかとお誘いを受けたのがきっかけです。実はその当時、演劇もやっており、海外を意識していた私は、30歳の時に言葉の壁が要らない和太鼓一本でやっていこうと決めました。

上森町長 確かに言語が違うと伝わりにくいこともありますからね。

中橋さん 特に演劇の場合は、通訳がないので日本語だとわからない人もいます。その点和太鼓の場合は、セリフではなく音で楽しんでもらえます。また、自然の木や動物の皮など、これまで『生きてきた』ものを材料としてできている太鼓の音で皆さんの心に感動を伝えることができると思ったからです。

上森町長 確かに祭りで太鼓の音が聞こえたらワクワクしますね。感動を伝えるための作曲は大変でしょうね。

中橋さん 『作曲』という人もいますが、私は和太鼓に「ド・レ・ミ」のような音符がないので『作調』と呼んでいます。和太鼓の場合、伝統ある郷土芸能の曲は使えないので、自分自身で作調しています。苦労はしますが、大変ではないですよ(笑)。

上森町長 そうなんです。ところで、浄るりシアターの小ホールで和太鼓教室をされていると伺ったのですが、どれくらいの頻度でされているのでしょうか？

中橋さん 教室を始めた頃は、月2回開催していました。人づてに参加者が



「和太鼓パフォーマー」の中橋 敏彦（なかはし としひこ）さんです。地元能勢町や豊能町などで和太鼓教室を開催されており、和太鼓フェスティバルなどの総合的な演出も行っておられます。

増えてきました。今では毎週木曜日に開催しています。

上森町長 そうですか。何名くらいの生徒さんがおられるのですか？

中橋さん 4歳から50歳までおよそ40名くらいですね。一度に教えることができませんので幼稚園児・小学校低学年及び家族の方。小学校高学年・中学生及び家族の方。高校生以上の3グループに分けて教えています。

上森町長 多くの方が参加されているのですね。ところで能勢町で活動されるきっかけは・・・。



中橋さん 大阪市内で和太鼓グループ『OSAKA K A 打打打団』

天鼓』のリーダーとして活動していました。グループを卒業する際、活動場所を東京にしようか大阪にしようか悩んだ結果、これまで活動していた大阪に決めました。大阪で活動するのであれば、市内よりも静かな土地を探し、能勢町でお世話になることにしました。

上森町長 そういえば、先日、田尻地区の体育祭に伺わせてもらった際、子供達と一緒に太鼓を叩かれていましたね。**中橋さん** そうです。新学校ができる

までは、田尻小学校と歌垣小学校に授業として教えていました。その時に「閉校を迎えてもこの地域のために指導を続けてもらえませんか？」と小学校の校長先生から相談を受け、定期的に指導することになったんです。

上森町長 地域に根付くような活動もされているですね。体育祭には中橋さんの指導を受けた地域の小学生が出演されたのですか？

中橋さん いいえ。小学生に限らず中学生も含めて参加したい人全員が出演しました。今回、初めて出演する小学生もいましたので、その人達には別に指導しました。

上森町長 最後に今後の抱負をお聞かせください。

中橋さん 「面白いおっさんが能勢町で太鼓をしている。」というのを全世界の人に知ってもらえたらと思います。体力の続く限りやっていきたいですね。

上森町長 世界中の人に中橋さんの力で和太鼓の魅力をお伝えください。そして、今後も能勢の子供達の指導もお願いします。期待しております。本日はありがとうございました。

今回は、中橋さんからご紹介いただいた方々へお邪魔します！お楽しみに〜！！



和太鼓パフォーマー「中橋 敏彦」

☎ <http://appare.joint-creative.link/>

✉ ok-toshi@gaia.eonet.ne.jp